



パンフレットNo.NT001

2007年9月3日作成

工業用

土壌改質・肥料吸収促進剤

栄冠NS

(EIKAN NS)

火山灰土壌や鉄・アルミニウム等の金属を多量に含む酸性土壌において、磷酸質肥料施用した場合、肥料はその土壌の性質によって生育・養育しようとする植物に吸収されない形態に変化しやすく、その肥料の効力が著しく低下します。栄冠NSは、磷酸分が土壌中の金属による固定化が起こる前に、土中で磷酸を待ち受け、先取りして非結晶性化合物を形成し、磷酸が鉄・アルミニウム等の金属イオンによる固定・無効化されるのを防止すると共に、それを植物の根に吸収されやすくします。

栄冠NSは、磷酸肥料の吸収促進及び土壌の団粒化促進を目的として作られたカチオン系高分子化合物（水溶性樹脂）です。また、窒素肥料の硝酸化成抑制の効果も認められます。

性質・性状

外観	透明液体
成分	ポリメチロールリン酸グアニル尿素系化合物
イオン性	カチオン
pH	6.2（1%水溶液）
溶解性	任意の水に溶解します。

特徴

1. 磷酸肥料は、酸性の土壌では鉄イオンやアルミニウムイオンとの結合、アルカリ性の土壌ではカルシウムイオンと結合して、作物に対して肥料の効力が低下してしまいます。栄冠NSは、非結晶性の磷酸化合物を形成し、磷酸を作物に対して有効なものに変え、根の発育を旺盛にします。
2. 栄冠NSは、微細な土の粒子を結合させ、団粒化を促進するはたらきがあります。土壌が団粒化すると、通気性・透水性・保水性が良くなり、有益なバクテリアが活発化し、腐植に富んだ良い土壌になります。
3. 栄冠NSは、土壌中で長時間にわたって極めて徐々に分解します。その成分は特に高温多湿時に硝酸化成菌の活発な作用を緩和し、窒素の散逸を防ぎます。

使用 方 法

- 標準施用量は10a（1/10ha）当り、栄冠NS(原液)4～6kgです。施用は、作物・気候・栽培方法等によって適宜50～1,000倍に希釈して、灌水してください。
- 使用例

		目 的	希釈倍数	使用時期	使用量	使用 方 法
果菜・花きなど	育苗期	活力ある根の発育をはかり健全な苗を育てる	300倍	第1回目の鉢上げ前	鉢又は床の底より浸み出る程度にジョウロなどで灌注する	
				最終育苗期中頃		
				定植直前	(1)浸漬法…鉢のままどぶ漬けして直ちに定植する (2)灌注法(上記)	
本畑		初期生育の促進 成病れ防止	500倍	定植後初期	株当り200～	株のまわりに灌注する (灌注チューブ使用も可)
				第1果肥大期	500ml	
タバコ	子床	根張りを良くし又苗の揃いを均一にする	300倍	仮植直後1回又はその7日後にもう1回	床の底より浸み出る程度にジョウロなどで灌注する	
ヤマノイモ	本畑	吸収根を増やし増収をはかる。土を膨軟にする	50～	植付1ヵ月後～ 2ヵ月後	株当り原液	株元を中心に吸収根の広がる範囲に散布する
			500倍		2～3ml	
茶	本畑	茎葉の伸長を促進する。土を膨軟にする	500～ 1,000倍	年間5～6回	10a当り 400～500ℓ	茎葉および土壤に散布する
芝	グレイリー	根の伸長、ターフの形成を促進する	500倍	発芽後又は張芝の活着後早期	m ² 当り3ℓ	1～2週間おきに 2～3回散布する
	グレイブリー	土を膨軟にし、根の伸長をはかる		通 年	m ² 当り1ℓ	

使用上の参考・注意

- 通常、育苗期～定植後初期にかけて2～3回、果菜類はさらに第一果肥大期にもう1回施用すると効果的です。
- 露地で使用する場合、降雨を利用すれば濃厚少量散布が可能です。(ヤマノイモ等)
もし誤って眼や口に入ったときは、直ちに流水でよく洗い流し医師の手当てを受けてください。
- 衣服・人体に付着した場合は直ちに流水でよく洗い流してください。もし発疹その他の異常が生じた場合は、速やかに医師の手当てを受けてください。
- 保管に関しては、異物が入らないように容器を密閉し、直射日光は避け、冷暗所（5℃～35℃）で保管してください。
- 廃棄するときは、産業廃棄物として処理してください。

お 願 い

弊社発行の「製品安全データシート (MSDS)」を用意しております。併せてご活用下さい。